

## 第2回 上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

日 時：平成25年2月25日（月）13：00～14：10

場 所：三沢市役所 大会議室

出席者：高井伸二委員（座長）、石井淳夫委員、田中孝雄委員、沼尾紀恵子委員、松山富雄委員、加藤正志委員、熊野稔委員、川崎富康委員、高田誓昌委員、浄法寺朝生委員、竹林秋雄委員、川村祐一委員、久野文夫委員、櫻田一雅委員、上長根浅吉委員、一戸実委員、小笠原和彦委員、中塩俊一委員、佐々木保信委員、横手幸年委員 20名  
（欠席者）菊地順三委員、佐々木一郎委員

### 1 開会

（事務局）

それではご案内の時間となりましたので、只今から第2回上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。議事進行につきましては、上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会開催要綱第6条第1項の規定に基づきまして、座長をお願いいたします。それでは、座長をお願いいたします。

### 2 座長挨拶

（座長）

本日は、お忙しい中、また足元の悪い中、第2回上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会へのご出席を賜り、誠にありがとうございます。前回の2月6日の懇談会では、委員の皆様方から共生ビジョン素案における圏域の今後の将来のあり方について、また、具体的な取組について魅力ある圏域にするため、さらに充実させていくべき点、新たに加えていくべき点についてご意見を賜りました。今回は、委員の皆様方から提案されましたご意見等、中心市である十和田市及び三沢市が実施いたしましたパブリックコメントの実施結果を踏まえながら、共生ビジョン素案の最終確認をしたいと考えております。皆様には、忌憚のないご意見をいただきながら進めたいと思っておりますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますけれども開催に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。

それでは事務局からよろしくをお願いいたします。

### 3 第1回懇談会説明概要

（事務局）

**資料1** 「上十三・十和田湖広域定住自立圏構想の推進について（制度概要等）」及び

**資料2** 「上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン（概要版）」に基づき説明。

（座長）

前回、ご欠席の委員の方々が5名いらっしゃいましたので、それぞれのバックグラウンド、分野から各論に関してご意見を賜ればと思いますので、ご指名で申し訳ないのですが、教育関係でコメントがございましたでしょうか。

(委員)

旧東北町の教育長、それから合併しました東北町の教育長をしておりました。まだ、中身を検討しておりませんので、これから意見があれば申し述べたいと思います。よろしくお願いします。

(座長)

続きまして、産業振興の面から今回の項目に関して何かございますでしょうか。

(委員)

三沢市の商工会長でございますけれども、第1回目の2月6日は、時間的スケジュールが折り合わなくて欠席しましたが、今事務局の方から一通り説明をされましたが、ちょっと戸惑いを感じているところであります。資料1の5ページにあります(2)結びつきやネットワークの強化のこのインフラ整備についての項目がありますけれども、私自身も三沢空港の機関に関連する立場もございまして、正規には三沢空港ビルの専務も出席しておりますけれども、北海道ライン、大阪ラインがしばらく運休していたのですが、3月31日から大阪ラインが復旧、それから7月から北海道ラインが復旧ということで、関係する一人として非常に嬉しく思いながらも、皆様方にも認識を新たにしてもらってというところを少し触れさせていただきました。以上です。

(座長)

またご指名で申し訳ないですけど、お願いします。

(委員)

先回は日程が合わずに欠席したことをお詫び申し上げます。認定農業者協議会の会長を仰せつかっております。この定住圏の件に関しましては、非常に大きな問題と思っておりますし、皆様方の意見を聞きながら、これから取り組んで参りたいと思います。よろしくお願いします。

(座長)

続きまして、防災・消防の分野で、お願いいたします。

(委員)

前回は所用によりまして出席できなかったことを大変申し訳なく思っております。私は、六ヶ所村の商工会長をやらせていただいておりますけれども、今はじめて説明を聞きましたけれども、まだ悶々としている状態でございますけれども、資料2の3ページに広域観光会議とか、あるいは特産品の販路拡大というのが載っておりますけれども、これについては私共商工会といたしましても、地場産品の地産池消ということで、どのように加工したり、付加価値を付けたりということで2年間いろいろと模索をしているところでございますので、こういう形で皆様からの意見等を聞きながら勉強して、地域のためにやってみたいと考えております。もう一つは、広域観光のことですが、たぶん1市2町1村で広域観光推進協議会なるものがあつたんですけれども、昨年話し合いの下に解散をするような話もありましたけれども、今またこうして大きなビジョンの中で一つあるわけですので、何とか観光開発の方も一生懸命やっただけであればと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

(座長)

それではインフラ整備関係でよろしく願いいたします。

(委員)

前は所用がございまして欠席して申し訳ございませんでした。今説明のありましたインフラに関するものの中に三沢空港振興会事業ということで、皆さんご存知のとおり、今年に入ってから、伊丹と丘珠がつながりそうでございます。ちょうどいい具合に三沢空港の利便性向上のために発着路線の拡大がぎりぎり間に合ったのかなと思っております。ただ、東京に関しましては、七戸町に新幹線の駅があるものですから競合するかと思いますけども、遠くにいらっしゃるときには、三沢空港から飛んでいただきたいと思っております。これからもよろしく願いいたします。

(座長)

前回から今回にかけて、時間も短いのですが、中身的に30を超える取組をこれからやっていこうということでございますので、なかなかそれぞれ一つずつについてはあれですけど、できるものからやるということと、全てフォローアップと言いますかPDC Aサイクルに乗って、とりあえずやって、検証して、そして更にまた改めながら次に行くような考え方でございますので、皆様方のご意見を吸い取る場面というのはいっぱいあると思っておりますが、今は前回ご参加いただけなかった委員の方々ですけれど、それ以外で少し時間が経ちましたけれども、その間に少し見ていただいて何かコメント等が新たにございましたら、あるいは質問がございましたら言っていただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

【質疑・意見等・・・なし】

(座長)

それでは次に議題に入りまして、パブリックコメント等もございますので、そのような中身の実施経過等々、中身を聞きながらさらに議論を深めていただきたいと思っておりますので、事務局の方からお願いいたします。

(事務局)

パブリックコメントの議題に入る前に今コメントがございましたので、観光と三沢空港の件につきまして、話がありました。あと特産品の関係ですね。広域観光会議について付言いたしますと、今回、上十三地域においらせ町さんも入って一つの上十三ということでまず青森県側ができたこと、次は秋田の小坂町さんと十和田湖を挟んで圏域にご参加いただいたということで、あとは既存の観光協議体というものもいろいろありますが、このようなフレームができたことで、既存の協議体を見直したらどうだろうなということで、広域観光会議の開催を考えた次第であります。また、三沢空港のほかにも七戸十和田駅、22年の冬にできましたけれども、今でも駅を使っている方はご存知だと思いますが、六ヶ所に行くシャトル便があったりとか、七戸十和田駅から十和田湖に行くシャトルバスを発車したりとか、あとは下北の玄関口としても宣伝してたりもするんですね。あの駅の利活用というのは上北地域の方にとっては共通の課題ではないかと思っておりますので、合わせ技で広

域観光会議ということで行政だけではなくて、できれば事業者の方にもご参画いただきながら、既存のものを見直せばどうかということで、どちらかと言えば中心市と関係町村でいくつか提案があってまとめたものでした。三沢空港の話ですけれども、全国的にもかなり珍しい空港だと思います。私は青森に来てまだ1年と数か月しか経ってないですけれども、市街地のど真ん中に空港があって、こんなにアクセスが良いというのは、なかなか無いなと思いました。ここから札幌や伊丹に行けるというのは非常に素晴らしいことだと思いますし、便が通った後に継続していくことも大事だと思っておりますので、空港振興会事業は丸ごと定住圏事業としてこれから強化してやっていくべきだと思いますので連携事業として組ませていただいた次第でございます。

#### 4 議事

##### (1) パブリックコメントの実施結果について

(事務局)

**資料3**「上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン素案に係るパブリックコメント手続きの実施状況について」に基づき、圏域住民等からの意見提出が無かった旨を説明。

(座長)

ただいまのご説明の結論としては、パブコメは無かったというか、やろうとすることが悪いことではないというか、むしろポジティブな意味での、この地域の活性化というようなことでございますので、各論的には非常に細かい部分もございますので、すぐに自分たちの身の周りで建設的なご意見をいただく機会がなかなかなかったと言いますか、これから動き出すと多分出てくるのではないかと期待をしておりますけれども、結論としては無かったということになりますので、他に前回は踏まえまして、今回のビジョン素案につきましてご意見がございましたら、ここでお願いしたいと思っております。

(委員)

今、事務局の方の報告ですけれども、パブリックコメントが無かったと、無かっただけで終わるわけじゃないでしょうね。今後の無かったことに対する対応はどのようなことが考えられますか。

(事務局)

パブリックコメントの制度といたしましては、あることをやろうとしたときに広く住民の意見を募るということなので、今回は残念ながら無かったということなんですけれども、繰り返しになりますが、無かったからいいやということではないと思っております。と言うよりもまだまだ認知させるための取組が進んでいないなというのがありますので、共生ビジョンをまとめた段階で今一度ビジョンがまとまったことについて、具体的にまだ案があるわけではございませんが広報し、毎年度協定やビジョン、取組状況を勘案しながら見直すと先ほど申し上げました。その時にもなるべく早い段階で事前の周知をして必要なご意見を頂けるように努力して参りたいと思っております。

(委員)

はい、期待しております。もう一点。冒頭の挨拶の中で少子高齢化という言葉が出たんですけど、大概こういう集まりになると出る言葉なんですけど、共生、生きるということは、今ある命が生きる

んであって、少子高齢化に対する云々という文言がどんなものでしょうか。やはり入れる必要があるんじゃないでしょうか。もうちょっとそれらの項目についてどういう捉え方をしているのかを少し聞きたいです。

(事務局)

委員仰るとおり、少子高齢化、かなり使い古された言葉と言いますか、長年言われている言葉だと思います。なぜ、長年言われてきたことに対応するためにぽっと新しい定住圏の話ができたのかという話が当然でてる話でございますけれども、ここは前回の資料であったところなのですが、今回ちょっと省略しておりまして、2005年から少子高齢化がいよいよ現実的に進み始めたというところが、この定住圏という話を始めるあたりの契機でございました。少子高齢化になるなると言っていたんですけども、2005年から現実に行き始めた。それが三大都市圏よりも地方圏の方が加速度的に進むということが予想されております。そういうものに対応する方策の一つとして定住圏というスキームが提唱されたわけでございます。なぜ、定住圏が少子高齢化に対応し得るかというところでございますが、ある市町村が単独でフルセットで物事に対応するのは、この人口減の中ではもはや不可能であろうと・・・

(委員)

現実として少子化・高齢化というものが私たちの身の周りにあるわけで、それに対する捉え方、前向きなのか、後ろ向きなのかということあたりを聞きたいです。

(事務局)

結論から申し上げます、これから難しくなるから踏ん張っていこうということになると思います。基本的には守るための施策でありますけれども、守りながらも産業振興の分野は特にそうですけども、攻めの施策も打っていくということで連携メニューは考えてございます。

(座長)

基本的には、共に生きるですよ。

(事務局)

答弁が漏れておりました。共生ビジョンという名前の由来でございますけれども、国の制度的なところもございまして、基本的には制度上、共生ビジョンは中心市が作るんですね。ただ、中心市だけが作ってしまって、関係する町村の方々を混ぜないで作ってしまうことが往々にして起こり得ると、そういうことは制度の概念からよろしくないだろうということで、実施計画の名前は、実施計画のビジョンではなくて、圏域の各町村を踏まえた上での共生ビジョンという名前にするべしと言われました。そういうわけで懇談会も中心市単独でやっているところもございまして、本圏域といたしましては、各町村の代表の方々にお集まりいただいて、このような形でご意見を賜りながらと思った次第でございます。制度上の枠があった関係で“共生”というものが入ったものでございます。

(座長)

よろしいですか。ほかに何かございませんか。

(委員)

奥入瀬のほうで観光事業をやっておりますが、観光事業に関することではなくて、一番最初に委員の話をもらった時に、なんと面倒くさい名前だろうなということを非常に感じまして、将来的にこの事業に広域の中で生活している一般市民や町民、そのような方々にも浸透していくためには、この会議ではこのネーミングでいいとは思いますが、制度上の名前なので仕方ないと思うのですが、もうちょっと一緒にみんなやってるんだというような名前があれば、ここで決めるとなるととても長くかかって大変だと思いますけど、もうちょっと親しみやすく、十和田市も三沢市も六ヶ所も、いろんなところも実は一つ同じことを目指してやっているんだというような名前というかキャッチコピーというか、そういうのがあれば意外と一般の住民の方も取り入れやすいのではないかとこのことを非常に感じておりましたので、中身ではなくて、ネーミングの部分も考えてみたらよいのではないかと思いました。

(事務局)

仰ることはごもっともでございまして、なかなか全国でも広報等に悩んでいるところでございます。全国的な例で言いますと、先進的に取組んでいる例としては、岐阜県的美濃加茂定住自立圏での事例がございまして、なかなか突飛だなと思うのですが、各市町村ごとにキャラクターを作って、ゆるキャラを使った形で定住自立圏をPRしたりしている例がございまして、またもう一つは、定住自立圏という名前が堅苦しいという部分はぬぐい切れていないのですが、徳島では四半期ごとに圏域で広報誌を作って、今、連携事業がどのようになっているかということを積極的に周知するような広報誌を作ってございまして、行政はちょっとスピードが遅いところもあつてご不満なところもあると思いますが、そのような例を研究しながら考えて参りたいと思っております。ご指摘ありがとうございます。

(座長)

他に何かございますか。

(委員)

先回も参加させていただきました。いろいろお話をさせていただきました。今、皆様のお話をお伺いしております、本当にパブリックコメントが全くなかったという話も、こういうことをやっているということを市民の皆様ご存じないのではないのかなと思いました。私も実はこの会に委員として出て下さいと言われて初めて、ああ、こういうのがあるんだと思いました。この資料を拝見してご案内いただいた時に上十三・十和田湖・広域・定住自立圏・共生ビジョン・懇談会という長い名前、これって何をやる会議なのとまず最初に思いました。一つ一つ、広域って広いつてことだよ、定住ってそこに住むってことだよ、自立圏って自分で立つてというふうの一つ一つ考えて初めて、ああそうなんだこれは一市町村でこれからいろんなことをやっていくには、どんどん少子化が進んでいくので、例えば消防にしろ、救急車にしろ、病院にしろ、学校にしろ、そういった様々なものが一市町村がやっていくには大変なんだよね、だからみんなで仲良く手をつないで仲良くやっていきましょうということなんじゃないのかなと私は理解いたしました。それで

よろしいでしょうか。

(事務局)

まさに委員仰っていただいたとおりのことをございまして、だったらもっと分かり易い言葉で語れよという話でございますけれども、一定の総務省の施策で要綱がありまして、こういう名前を使わざるを得ないことはご理解いただきたいと思います。まさに仰ったとおりでございます。要は何なのと言われればそういうことでございます。

(委員)

先ほど2005年から少子高齢化が進むんだということで、2月3日の東奥日報の新聞だと思いました。2035年には青森県の人口が100万人を切るかもというような報道がなされました。その時に西目屋村だったと思いますが中学校の生徒が9割減と書いてありました。9割減ということは、1割しかいないということですよ。というふうにそれを読んだときに例えば1000人の子供が100人になっちゃうということですよ。人口もそうなるということですよ。ということを実体的に一つずつ考えたときに、やっぱりこんなことが大変なんだと。今回の機にしても、みんなでやっていけば何とかなるものではないのしょうけど、みんなで手をつないで国に働きかけるなり、一緒にやっとうと皆さんに意識を持ってもらうなり、皆様にご理解いただくということがすごく大事なんじゃないのかなと、もちろんここでお偉い何とか長さんとか、何とか会長さんばかりいっぱい集まって難しい話をいっぱいしても、市民の町民の村民の皆様が、え一何やっつんだ？と私達には関係ないことなんだというふうに思われてしまったら何にもならないのではないのかなととても思いました。ですから、本当に各論になって小さいことまで極端に話し、例えば、うちの前の雪何とかしてくれという、そういう各論から大きな青森県の上十三の広域の事業ということから、いろんなことが考えられると思うのですけれども、本当に一人一人の意識がそういうふうになっていってくれたら、何とかなるのかなというふうに思いましたけれども、大変難しいことだと思います。でも、そのように感じました。以上でございます。

(座長)

はい、ありがとうございます。

(事務局)

誠に仰るとおりでございます。前回会議の最後で申し上げたと思いますが、この制度でございますけれども、一言で言えば、積み木だと申し上げました。積み木の心は何かと申しますと、バランスと積み重ねていく、じっくりと足場を踏み固めながらやっていくということが大事だと思います。当然ながら広大ということは何度も繰り返しておりますが、広いが故に特色もあれば、それぞれの地域間の違いもございます。ただそうは言いながらも、人口はどんどん減って行って、圏域では十和田市と三沢市が人口が多いところでございますけれども、そこですら現象はなかなか食い止めがたいところがあると思います。そうした中で住民サービスを守っていくということは、どの自治体も共通してあることでございますから、お互いに連携しながら相乗効果につなげられること、また、お互いに共通の悩みがあること、そういうところではお互いに手を取り合って長い目で連携していこうじゃないかということが定住圏の眼目でございます。当然ながらそれぞれに譲れないと

ころはあると思います。ですけれども繋がなきゃいけないところは繋がらなくてはいけない、そういうことで一歩でも二歩でも来るべき課題に備えるための手段の一つとして、この取り組みを提唱させていただいたところでございます。長々話してきましたけれども、いずれにしましても、まだまだ認知度不足があるところでございますので、事務局は努力しなくてはならないと思っております。ご指摘ありがとうございます。

(座長)

他に何かございますでしょうか。

(委員)

少子化というものを是認する前提でものを考えるのでしょうか。

(事務局)

是認するとかしないとかというよりも、全国的な傾向を見るとなかなか減少カーブを上向きにするのは難しいなというところはございます。

(委員)

私が今、問いたいのは、沈みゆく太陽にだけ視線を当てているような会議なんですかと。例えば、今の子供たちが定住し得る環境を作るのも一つ。そのためには何が必要なんだろうかということの論もあらねばならないのではないのかなど。子供が少ないということは、なぜ少ないのか、その論もまた必要なんじゃないだろうか。背景は何なんだろうか。隘路打開はないのかと。その辺が出てこないのかなというところが、もどかしさを感じます。

(事務局)

失礼しました。少子高齢化というのは、結論から申し上げれば、いろいろな要因があると思えますけれども避けがたいものだと思います。それを現実として受け入れた上でどのようにやっていくかというところで、この話は始まっております・・・

(委員)

この会が、そこまで論議する場ではないですよと言われれば、供しません。もし、そういう項目を論ずる場もいくらかあるとすれば、論じてもらった方が良いのでは。

(事務局)

それに関しましては、資料7をご覧いただきたいと思えます。

**資料7** 「上十三・十和田湖広域定住自立圏 推進体制イメージ」に基づき、以下のとおり説明。

冒頭、説明があまりにも雑ぱくでございましたので、行き違って申し訳ございませんが、定住自立圏のビジョン自体は基本的には行政の方が作成することとなっております。最終的には、首長間で協議して定めることとなっております。では共生ビジョン懇談会というのは、それに対してどういう立ち位置なのかというところでございますが、策定や変更に当たって、行政サイドだけではなくて関係者の方からのご意見も頂くというところでビジョン素案を提示しております、そのビジ



ョン案につきまして意見を言っていただくというところでございまして、なかなか申し上げにくいところでございますが、そもそも論について、いわゆるブレインストーミング的に掘り下げて議論するというよりは、素案に対して、それぞれの分野の立場からご意見を言っていただくと、それを踏まえながら最後は議会の意見をいただきながら首長間で決定するというスキームでございまして、素案に対してご意見をいただくというのが、ビジョン懇談会の立ち位置でございます。

(座長)

ここは、少子化を検討する場所ではないですよ。それは、確かだと思います。ただ、それについてご意見をここで挙げていこうということは、ここではないと思います。

(委員)

当初から本会議の方向性というのはこういうところですよというところを説明してください。

(座長)

結局、少子高齢化という現象がある中で先ほど委員からもお話がありました、パブリックサービスがどうしても低下していくという中でその低下をいかにしてみんなで食い止めていくかという連動的な広域、定住という形でみんなで支え合っていこうという、その支え方について、それぞれの分野におけるアイデアをここで出されて、いろんな分野で支え合っていきましょうということを取り組むと、国も含めていろいろサポートがあり、私は専門家ではないが、このまま放置しておくということは非常にまずいということを感じているから、こういう取組を全国的なレベルで補助金を出しながらやっていくという発想ですよ。

(事務局)

すみません。もう一点お詫びを申し上げなければならないのですが、前回の会議でもご提示したところでございまして、冒頭に繰り返し申し上げればよかったのですが、議論いただきたい視点といたしましては、資料6がございました。

**資料6** 「共生ビジョン懇談会の議論の視点」に基づき、以下のとおり説明。

先ほど資料7のほうでビジョンの案に対してそれぞれの分野でご活躍なさっている立場からご意見をいただきたいと申しました。では、どの観点から意見を言うのかということでございますが、ビジョンを丸ごと裸でどうですかというわけではございませんで、ご意見をいただきたい点というのは、概ね2ポイントお願いしたいということで資料6に記載している次第でございます。共生ビジョンでございますが二本柱で成り立っております。第三章は圏域の将来像、第四章は具体的な取組となつてございまして、この二本柱がビジョンの骨格でございます。骨格の方に中心にご意見をいただきたいと思っております、ポイントは、将来像についてでございますが、圏域の発展のためにさらに追加すべき視点は無いか、将来像、あり方についての意見をいただきたいということでお話をさせていただきまして、いろいろご意見を賜ったところでございます。2点目は具体的取組についてでございますが、ポイントとしましては、事業そのものに対して良い悪いという視点よりは、より良いものとするために充実させていくべき点、新たに加えるべき点は何かについてご意見をいただきたいということでお願いした次第でございます。この点も冒頭の方でしっかりと話すべき点でございました。失礼いたしました。

(座長)

よろしいですか。他に何かご意見ございますでしょうか。

なければ、第1回懇談会委員意見要旨について、事務局から説明をお願いいたします。

## (2) 第1回懇談会 委員意見要旨について

(事務局)

**資料4** 「第1回上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録」及び

**資料5** 「第1回上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会 委員意見要旨」に基づき、第1回懇談会における意見の要旨を説明。

(事務局)

いただいたご意見は、ビジョンの取組をより良いものとしていくための重要な視点として活用していきたいと思っております。また、具体的にご提案をいただいたものもございまして、それらにつきましては、第1回でもお配りいたしました「懇談会の議論の視点」に基づきまして、実現の可能性を圏域内で協議して、研究・検討を行って参りたいと思っております。

ここで先ほど簡単に説明しましたが、引き続き説明したいのが資料6と資料7でございます。

**資料6** 「共生ビジョン懇談会の議論の視点」及び

**資料7** 「上十三・十和田湖広域定住自立圏 推進体制イメージ」に基づき、以下のとおり説明。

資料6について、懇談会では主に圏域の将来像と具体的な取組に対してご意見をいただいたところでございますが、その後について、いただいたものについて行政でございますので実現の可能性を圏域内で協議し、研究・検討を行って参りたいと思っております。100点満点と言ったとおりになるかどうかわかりませんが、なるべくご指摘や問題意識を踏まえた形でビジョンを見直し、改訂していきたいと思っております。

それでは、どういう体制や仕立てで回していくのか、それを一枚紙にしたのが資料7でございます。ビジョン懇談会と行政との関係について申し上げたところでございますが、いただいたビジョン案への意見を踏まえて、最終的には、首長間で決めると申し上げましたが、行政と言っても二段階ございまして、一つは主管課長会議というのがございまして、主に企画調整課とか企画財政課、全体の取りまとめに当たるところが、この定住圏のとりまとめをやってございますが、中身が非常に多岐にわたっております。そういうことで企画担当だけではなくて、この話は市町村の役場、全体の横連携をしながらやっという事で組んでございます。もう一つは具体的に各担当部局ごとにワーキンググループを開催して、もんでいこうと思っております。やることにつきましては、いただいたご意見を踏まえまして、具体的な取組事項につきまして、企画の取りまとめだけではなくて、担当レベルでの調整も踏まえながらやっという事で思っております。簡単に言えば、農業関係であれば農業政策課、観光であれば観光推進課だとか、福祉であれば健康福祉課だとか、個々の担当課を交えた上で定住圏の話をやっという事で思っております。そうした上で毎年度ローリングをしながら、担当者会議を踏まえながら、やっという事で思っておりますのでご提言を踏まえながらこれから毎年度見直しをかけてやっという事で思っております。ちょっと長くなりましたが説明は以上です。

(座長)

ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明につきまして、何かご質問ございますでしょうか。

最後に言われましたけども、ここの共生ビジョン懇談会のミッションというのは何かというと、取組をしている民間や地域の関係者を構成とする懇談会の検討を経るという、ここの委員の皆様方はいわゆるそれぞれの分野における専門家、代表者としてのご意見をそれぞれの細目についてコメントをいただくというのがミッションですよ。

(事務局)

最後に事務局から差し出がましいですが何点か申し上げたいと思います。一点目でございますが、冒頭の説明に不備があったことは心からお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。そして、共生ビジョンを2回の懇談会でタイトでございますがご議論いただいた後で、今後どのようにしていくかというところでございますけれども、改めてお話をさせていただきますと、最初に申し上げたスケジュールにございますけれども、この後、十和田市であれば議会の方に説明いたします。議会にもご説明した上で最終的には3月中にさらに市町村間で協議の上で首長会議を開催した上で一発目のスタートラインとしてのビジョンを取りまとめようと思っております。ビジョンについては、この場で作っておしまいということではございません。ということでこの懇談会も2回でおしまいということではございません。やりながら見直す過程が当然組み込まれております。委員の皆様にはそのつかさつかさで事業内容等を変更等を検討する際に懇談会にご参加いただきまして、またご意見をいただきたいと思っております。また、今回2回開催して、やはり行政側の対応や認識が甘いというふうに思いました。そういう意味で取りまとめの企画の方が担当の方にも問題意識を投げかけていこうと思っておりますけれども、引き続き共生ビジョンを実りあるものとするように叱咤激励いただければと思っております。非常にタイトなスケジュール、2月に2回行ったわけでございますけれども皆様には貴重なお時間をいただき、ご意見をいただきまして、ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、より良いものとするように重要な視点として活用いたしますし、具体的な提案につきましては、時間はいつまでにはなかなか申し上げられませんが、検討課題として圏域間で協議して参ります。本当に貴重なお時間ありがとうございました。

(座長)

はい。それではこの素案を委員全員一致でお認めいただいて、次のステップに入るということでご確認を今事務局からもしましたけども、よろしいですね。

【「はい」と言う声あり】

ありがとうございます。それでは第2回の上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上